

議会改革検討委員会 会議要録

- 1 開催日時 令和6年11月21日（木）
開会 10時30分
閉会 12時06分
- 2 開催場所 第二委員会室
- 3 出席した委員 加藤 誠 一 委員長
河井 昭 成 副委員長
重田 剛 委員
本田 秀 樹 委員
谷口 典 隆 委員
野田 武 宏 委員
駒井 千 代 委員
河村 浩 史 委員
清水 ひとみ 委員
中山 和 行 委員
- 4 事務局職員 箕浦事務局長、保田次長
総務課 澤村参事、梅本総務係長、吉田主査
議事課 一丸課長、内田参事、森課長補佐
政策調査課 佐藤課長、川畑課長補佐、吉松主幹、辻主査
- 5 議 題 若者の議会への興味と関心を深めるための取組について
- 6 配付した資料 別添のとおり
- 7 議事の経過概要 別紙のとおり

議事の経過概要

開会宣告 10時30分

1 若者の議会への興味と関心を深めるための取組について

◎加藤誠一委員長 ただいまから議会改革検討委員会を開会いたします。

前回の委員会で申し上げておきましたように、若者の議会への興味と関心を深めるための取組という題に対して、大学生の皆さんとの意見交換をさせていただくということでした。

つきましては、本日は、ドットジェイピーというNPO法人に属しておられます大学生の皆さんにお集まりいただきました。ドットジェイピーの活動内容等については後ほど自己紹介を兼ねてご紹介いただくことにいたしまして、まずは委員の方から自己紹介をします。

(委員自己紹介)

◎加藤誠一委員長 ありがとうございます。それでは次に学生の皆様から活動内容のご紹介と自己紹介を併せてお願いします。

(活動紹介および学生自己紹介)

◎加藤誠一委員長 ありがとうございます。参加いただいた皆さん方の自己紹介とそれからいろんなお考えもありました。

中には、議員と政治に全く興味なかったという方もおられましたし、きっかけは、友達から誘われたからという方もおられました。今回のテーマが、若者が議会に興味と関心を深めるためにという話ですが、こういう方ばかりでしたらおそらく投票率は100%ではないかと思いますが、そうなるにはどうしたらいいのかということが、今回のテーマです。

これから意見交換ですが、初めに私から、投票率を見ても、なぜ行かないのであろうか、いろんなケースがあると思いますが、やはり興味がそもそもないのではないか、議会としてもどうしたら興味を持ってもらえるのかということが我々の課題です。

そこで、今回は議会にということですが、政治で結構です、政治に興味がない方に持ってもらうということに対して、皆さんの経験から、全く興味持たない方に持ってもらうためにどうしたらいいか、活動の中で参考になるようなこと、あるいはアイデアがありましたら、一言ずついただき、それからその意見に対して意見交換したいと思います。

○田中さん 2つあると思っていまして、1つはエンタメ性です。

議会に関しても、ただ話してるだけというのが自分たちから見た見方で、何を喋っ

ているのかが全然理解ができません。そこで、しっかりエンタメ性を持たせる、サッカーでも、エンタメ性とか、スーパースターが生まれてやっとなんか高まってきたということもあると思うので、そういうところや、首長インターンシップや議員インターンシップに参加してもらった上で政治をしてもらおうということも1つかと思います。

○中村さん 私は、大学の授業で特別授業などを実施したらいいのではないかと考えています。実施されているところもあるかもしれませんが、特別授業として行くのもいいと思いますが、他にも経済学部だったら経済学部の政策の科目のところで授業していただくといいのではないかと考えています。そこで、講義のみだけではなく、ざっくばらんな質問会や、スライドにQRコードを投影させてスマホで読み込んでもらったら気軽に質問できるということをしていただくと、学生も気軽に政治参画していただけるのではないかと考えました。

大学の授業で先生が政治の話をしてもらってもあまり関心を持ってないということがあると思っていて、だからこそ、議員が直接講義していただくことで、なんかちょっと違うなとか、雰囲気も違うな、となると思いますが、リアルな現場の話をしてくださると、より貴重な機会になると思います。議員さんならではの話をしていただくことで、少しでも興味・関心を持つ学生は増えるのではないかと考えます。

○榊原さん 自分はきっかけ作りだと思っていて、入口をどれだけ入りやすくするかがすごく大切だと考えています。

きっかけ作り、入口をどうしていくかという話をたくさんできればと思っていますが、例えばやはり若者の興味関心は、今はインフルエンサーや芸能人といったところにすごくあり、そういう若者のツールからの情報発信がすごく貴重だと思っています。

あとは、若者にとって魅力、メリットを感じられるような施策を考えてもらえる議員さんから政治に興味を持って、別の分野に視野を広げていく、という若者はたくさんいると思っているので、そういう入りやすさをどれだけ作れるか、きっかけ作りをどれだけできるかがすごく大切だと思っています。

○飯田さん 先ほど中村さんが言ってくださったことと少し重なる内容にはなりますが、私は議員の協力を得て高校での出前授業をやるのが有効ではないかと考えています。

実際に、数年前に九州、熊本で行われたことですが、ドットジェイピーと議員とで協力して高校に授業に行き、そこで議員さんが普段どのようなことを考えてどのようなことをされているのかということや、選挙に行くことの大切さについて授業をしていただければいいのではないかなと考えています。

これを考えた背景は、やはり若い人たちは、政治に触れる機会がないから選挙に行けない、どこに投票したらいいかわからないから行けないっていう人が多いのではないかと考えていて、テレビとか新聞もあまり読む人は少なくなっていて、SNSを若い人は見るのですが、正確な情報かどうか、特に若い人こそあやふやな情報に取り込まれてしまいがちなのではないかと考えるので、議員から生の声を語っていただくと

いうことがすごく大切になってくるのではないかと考えています。

また、私が高校生のときに高校で主権者教育は一応ありましたが、そこでやったのは、投票箱の説明や投票に行ったらどういう流れで投票できますよっていうところだけでした。そもそも選挙に行かなかつたら投票箱の説明をしても意味がないと思っているので、議員さんがどのような思いで活動しておられるのかを伝えていただけたらとてもいいのかなと考えています。

伝える情報に偏りが出てしまうのではないかとという懸念などもあるかもしれませんが、私達ドットジェイピーは、そういった意味で中立の団体ですし、実際に熊本で行われた事例では、各党の議員さんに登壇していただいて授業を行うということも行われました。それが難しい場合でしたら、私達ドットジェイピーにスライドを預けていただいて、それを学生、高校生に伝えるということができるといけないかと考えています。

18歳から投票できるので、高校でやることで、blankなく、選挙に行くことが当たり前、という雰囲気を作っていけることが一番いいのではないかと考えています。

○藤本さん 私が考えた内容は、若者の疑問に対して、それを議題とし、それについて大人が本気で話し合う場を設けることがいいのではないかと考えています。自分の経験談になりますが、こういったインターンシップをいろんな学生の方に説明会で紹介しております。そこでこういった活動があるんだよと説明するんですが、その中で、学生の政治や議員に興味ない方でも、議会傍聴って面白そう、聞いてみたい、という方が結構多くて、そういった大人の話し合いや、本気でどうやっているのかというところに、学生は興味があるのかなと思ったことが理由としてあります。また、説明会をしていく中で、こういった議員の方がいるんですよ、こういった政策を考えられているんですよ、ということの説明するのですが、それがピンとこない学生が多くいます。学生の中にも、何かしら普段の生活で疑問に思っていることや、何か困っていることが絶対あるんですけども、それが政治の場で議論されていることも知らないし、疑問だけど疑問のままその学生の中にとどまっている状態で、それは議員がやってるんだよという話をすると、そうなんだ、という声を頂きます。その学生さん自身の考えや疑問点が、将来を明るくするといったところにあまりつながってないと思ったので、若者の疑問を集めて話し合うと、共感する学生が増えたり、もうちょっと具体的に落とし込むと学校内の校則などに対して議員の皆さんが話し合っている姿を見たら、こんな感じで解決していくんだ、政治もそうやってやってるんだ、という当事者意識みたいなものを持てたり、入りやすさが生まれてくるのではないかなと考えています。

もう一点は、分かりやすい発信かなと、やはり思います。最近の衆議院選挙でも、友達と話し合う機会があり、そこで政党のまとめとかはいろいろあるけれども、議員の方々のまとめとかあまり目に入る機会ないよね、という話になったので、何かしら私達の目につきやすいところにまとめて掲示していただくということも大事なのかなと考えました。

○石村さん 若者が政治に直接いきなり関心を持つということは、正直、難しいと
思っていて、さっきの榊原さんの入口の話になると思うんですけど、何も政治から直
接入ることはないと思っています。自分自身、本当に最近まで全く政治に対しての関
心もなく、議員さんに対しての関心も、正直ありませんでした。

どこで自分が関心を持ったのかというと、東京都知事選です。東京都知事選のとき
にある方に影響を受けて、よくその方を拝見するようになって、その人を入口として
自分自身、議員とか政治っていうところに興味を持ち始めました。

それが何かというと、やはり若者は何か面白そうとかなんか見てみたいかもって
いう気持ちから入るのが大事だと思っていて、それこそYouTubeなどで、例えば議員同士
が議会で喧嘩したらしいとか、言い合いしてるらしいとなったら、政治自体には関心
がなくても、日本のお偉いさんってちゃんと話し合ってるイメージあるのにバチバチ
してるらしいよ、といったところで、エンタメ性は作れるっていうところで、僕自身、
そういうところから入ったので、そういうところから入って議員さんが語られている
熱さとか持っている想いだとかいうところに入れると思うので、そこからその議員さ
ん何やってるんだろうとか、この議会のテーマってそもそも何だったんだろうと覗か
せてもらうというのも一つだと思います。

あとは入口というところでは、ガクチカだったり、自己成長であったり自分自身を
変えるきっかけを作りたいという学生は多いと思っており、議員インターンシップ自
体に元々興味はないけど、自分がちょっとでも成長できる場として入っていただいて、
そこで議会の内側を知ってもらうとか、政治の内部の状況を知ってもらうところから
政治への関心につながっていく若者も多いのではないかと、僕自身、考えています。

○鶴田さん 議員のニュースを聞くと、国会で寝てる人がいるとか賄賂とかパワハ
ラとか、どうしてもマイナスイメージを持ちがちだと思います。

若者は別に、投票率とか投票しないといけないということに関して、関心とか興味
がないわけじゃないと思います。

漠然と、若者の投票率が低いとか、このままの日本じゃ駄目だよ、というところ
はみんな少なからず持っていると思うんですが、いざ投票するとなったときに、議
員のことを知らないということが問題だと思います。選挙に出ている議員が多くいる
けど、この人ってどんな活動してるのか、名前すら聞いたことないことは結構あると
思います。

私が議員に興味を持ったきっかけは、このインターンシップを通して1人の議員と
2ヶ月関わらせてもらい、活動先までの車の中で政治の話や議員個人の私生活の話な
ども聞いて、何か距離感が近く感じました。議員さんが2ヶ月間、学生を受け入れる
のは忙しくてなかなか難しい方もいるかもしれませんが、もう一つ自分が政治とい
うか議員に興味を持つきっかけとなったのは、その議員が京都市議会の方だったので、
その議会を見に行きました。行ってみると、議会を見ている人は、僕らインターン生
だけだったんです。平日ということもあったのですが、もっと実際に議会に行って話
を聞いたら、意外と話してる内容は自分の生活に直結している話ばかりだったので、
議会に学生を誘い込めるようなイベントもあっていいのではないかと考えています。

就職活動などでも、日本のことを知っていないと何を話したらいいか分からず、何のために働くのかということも曖昧になってしまうかもしれないと思っているので、自分も学生にこういう政治を知るきっかけを提供できたらいいなと頑張っています。

○中原さん 多くの学生にとって、政治に関心を持たない一番の課題として、政治が遠い存在で身近に感じられないこととされていて、この問題を解決するためには、小学校、中学校の場で、職業見学や職業体験の機会があると思いますが、そこで、議会に実際に訪れて、議会傍聴や実際に議員の方々とお話しする機会を設けたり、小学校の遠足や修学旅行で議会の施設に実際に行って政治に関する関心を高める機会を作るのがいいと思いました。

○北村さん 大学のゼミの授業で法政策の授業を取っていますが、そこでなぜ今の若者は議会に興味がないのかという問いかけをしたところ、知識がないから関係ないと思ってしまったり、最終決定をするのは議員なので自分たちの声を通りにくく自分事に思えない、という声がありました。そこで、例えば議員の方々の目があるところで、学生が学生同士だけで議会を開き、その議会で実際に決まった政策や議決したことを本当に採用して実現するレベルまで持っていけば、学生は自分たちが話して自分たちが決めたことが本当に社会に影響されて、自分たちの発言がきちんと世の中に通るのだということを実感すれば、自分事として議会をもう少し見てもらえるようになるのではないかと思います。

◎加藤誠一委員長 ありがとうございます。それではここから意見交換を進めていただきたいと思います。

◎重田剛委員 私から2点お伺いしたいと思います。

これまでに一度でも投票に行ったという方は挙手をお願いしたいです。

(数名、挙手)

ありがとうございます。

皆さんの自己紹介をお伺いすると、今の自分から変化したいという方が一番多いので、今、どういう状態だからどう変化したいのかということをお願いします。

○榊原さん 変化したいということは自分が成長したいということだと思っています。私も就活中で、自己成長について考えてはいるのですが、まだ答えは出てなくて、ただ自分のできることを増やしたいという思いが一番強いと思っています。できることを増やすためには知ること、知識を増やすことが大切だと思っています。知らなければ、自分ができるかできないかも分からないと思うので、幅広い経験を経ることが大切だと思っています。このドットジェイピーという環境が何でもできる環境だと考えており、今、支部代表としてできないことにたくさんぶつかって、その中

で、このできないことを、どうできることに変えていこうかという、課題発見、課題解決の繰り返しで、できる幅を広げていきたいと思っています。

○石村さん 私は今、まさに変化中、自己成長中だと思っています。こういう場に来ているのも、それこそ自己成長中、変化中だと思っています。

最初の自己紹介にも話させていただいたんですけど、1回生のときは、本当に何も無い大学生活を送ってました。本当に何も無い大学生活を送っていると、自分自身にどんな課題があるのかも分からないし、自分自身を知らない、自分が社会に出たときにどんな立場になるのかも分からないし、どれくらいのラインにいるのかも分からないことがとても不安でしたが、シェアとか価値観というのが、こういう場に一步踏み出すことですごく広がるとしています。そういうところから自分の課題が見えてきたり、今こういう力が必要になってるところを見つけ出して、できることを一つでも増やして、自分自身に自信をつけたり、どんなところに出ても通用するような力をつけたいという思いでやっています。

◎河村浩史委員 ちょっと基本的なことをお聞きしたいんですけども、今日参加されてる方、結構京都の大学の方が多いのかなと思うんですが、滋賀県に住んでいる方はおられますか。

○田中さん 今日、参加してる中にはいません。

◎河村浩史委員 資料をいただいている運営団体について、拠点数が32都道府県あり、学生スタッフ数が約580名おられるということなんですけど、結構空白地もあります。県によって活動をされている温度差が地域によって生じているのかなと思うんですが、地域によって熱心なところとまだ全然活動ができてないところの差がある理由があればお聞きしたいのと、滋賀県の方がスタッフに何名おられて、インターンシップを希望されている方が何人おられるか、分かるようであれば教えていただきたいと思います。

○田中さん 活動範囲については、大学側や大学生がいるかどうか重要になってきます。私達のインターンシップは、大学1年生から4年生まで参加可能ですが、大学生が住んでいるところが少ないということがあります。

他にも活動拠点という形になっていても、例えば私は京都支部で活動していますが、その管轄が京都・滋賀となっていることもあると思います。

あとはスタッフや、まだ開拓ができてない地域もあるので、これから滋賀もどんどん開拓していきたいと考えています。

そしてスタッフ数に関しては、滋賀には大体5名弱ほどスタッフとして活動しています。インターンシップ希望の人数は説明会時点にはなるんですが、大体10名ほどが参加していただいている、そこから増減があると思っています。

◎河村浩史委員 私が大津市議会議員のとき、インターンシップを受け入れたくて、大津市議会は龍谷大学と協定を結んでいましたので、直接、その大学にインターンシップの受入れの応募をしましたが、1人も応募がなくて寂しい思いをしました。直接、大学でそういう発信をしても、他の職種のインターンシップの募集と比べられたときに、なかなか興味というか関心を持ってもらえなかったという苦い経験があるので、今回のこれも一つのきっかけだと思うので、ぜひ受け入れたいと思います。

○田中さん ありがとうございます。後ほどまたお話させていただきたいと思います。龍谷大学に関して補足をさせていただきますと、やはり、理系学部が多いというのが、一つ難点かなと思っております。と、いうのも、インターンシップ参加者は、法学部や政策学部が多い印象です。ただ、龍谷大学の農学部は、公務員志望が多いので、インターンシップは魅力に感じていただけたと思います。学生の集客力は、僕らの魅力の一つとっているので、そこは協力していければと考えています。

◎清水ひとみ委員 私も前職が大津市議会議員で、5人の会派でしたが、2人、今まで受け入れており、いい経験をさせていただきました。

ただ、2人とも議員になるつもりはありませんとはっきり宣言をされてのインターンシップだったので、会派で受入れができるような仕組みもしていただけたらなと思います。

もう一つはSNSの発信についてです。

今回、皆さんが入られたのもインスタのメッセージを見てということを書いておられて、兵庫の選挙の結果を見てSNSのあり方、あれが本当に良かったかどうかというのはいろいろ検証しないといけないと思いますが、発信をしなくてはいけないと努力もしてるけど、なかなか若い人に見ていただけているのかな、ということを感じているので、こういうような発信をすればどうかってアドバイスを頂けたらなと思います。

○榊原さん いろんな人に見てもらえるアカウントにするのってすごく大変だと思っていて、元々、YouTubeだったりSNSで活動している人たちとコラボすることが簡単だと思っていて、そういうインフルエンサーと政治について議論したりお話しする機会は結構入りやすいのではないのかなと思っています。一からアカウントを作って育てていくのはすごく難しいですし、見てもらえるようになるまでに時間もかかるので、まずはそういうところからスタートするのは結構入りやすいのではないかなと思っています。

○飯田さん インターンシップ参加される学生の活動の中で、SNSの運用をされる方も結構多くて、若者ならではの視点で普段慣れてる人が慣れてることを行うので、議員が頑張ってる動かしよりも楽にできるのではないかとも思っています。

◎清水ひとみ委員 ありがとうございます。悩みながら頑張っていきたいと思いま

す。

◎谷口典隆委員 いろいろとお話をいただき、非常に興味を持っています。

この前行われた兵庫県知事選挙は、ネットメディアのあり方ということで一石を投じたと思いますし、我々としては正直、ショックを受けたというところがあります。

我々は、どうしても、新聞に載ったということを指標の一つにしています。まだ、インスタやYouTubeで紹介してもらったという指標がないのが現状です。ただ、今おっしゃっていただいた皆さんの御意見も分かりますし、この前の兵庫県知事選挙を見て、確かにこれからのありようというのがあるかなと思いました。

ただ、若者向けの政策に関しては、決して我々が意識的にしているわけではないのですが、投票率が高い高齢者に向けて政策を打っていった方が当然ながら票を頂ける可能性は高く、高齢者や分厚い中間層に対して意識的に政策なり、議会の質問ということを考えています。私も、20歳ぐらいのときに中曽根康弘さんが総理大臣で、そのときにある雑誌を見てたら、若者が選挙に無関心と言われていて、このまま我々大人年寄りがこの国を好き放題やりたい放題やっていくよということが書いてあるのを見て、これはえらいことだと感じました。

政治は高邁な精神を持って臨んでいます。最初のきっかけはもっとフラットなところだと思いますので、皆さんがこれではいけない、自分たちで変えていこうと思ったら、政治に参画することも一つだと思います。

私もあの20数年前に滋賀県立大学の学生さん2人を彦根市議会議員のときに受け入れさせていただいた経験もあります。そのときもお話させていただいたんですが、政治家にならなくてもいいけれども、いろんなアプローチの仕方があるということを理解していただきたいと思います。

先ほどの小学生、中学生の職場体験を議員がやったらどうかということで、参考にさせていただいてこれからいろんなところにアプローチしようかと思います。

政策の関わり方として、子ども基本条例が今日から意見公募が始まりました。議会に政策を提言するだけではなくて、そうしたことにも、ぜひ参画していただきたいと思います。県の政策に対して意見を出していただくということも重要だと思います。

○飯田さん 政策を打っていくターゲットは高齢者になってしまうという話をされたと思います。今、若者が投票に行かないという状態で、多分、他の議員も高齢者向けに政策を打たれる方が多いかなと思うのですが、そういう中でSNSなどを使って若者向けに政策を打っていったら、めちゃくちゃ強いのではないかと思います。年が上の方はテレビとか新聞、若者はSNSが多いということで完全に分けられると思うので、高齢者に対してもやりつつ、若者に対してもSNSを使って発信をしていけたら、良いバランスで投票してもらえないのではないかと思います。

◎加藤誠一委員長 谷口委員の話はありましたけれど、皆いろんな考えであり、必ずしも全員がそうではないということだけ申し上げておきたいと思います。

◎駒井千代委員 滋賀県では、小学生、中学生対象の「子ども県議会」をしており、1年間をかけていろいろ調査をしてもらって、最後にどういう政策がいいかということを出してもらい、部長の答弁も、それをどのような形で実現できるかということで、実現できるきっかけは非常に大事だと思います。

校則の話がありました。校則は今、文部科学大臣から、現場で話をして変えるべきところは変えられるようにという通達が何度も出ていて、それが一番身近なきっかけだと思います。生徒会の経験とかもされたと思いますし、クラブ活動でクラブの予算折衝を生徒会とやったと思います。それが民主主義のプロセスに近い経験だと思いますが、そういうことを感じたことがあるのか、感想があれば言っていたきたいと思います。

○北村さん 小学生からそういう活動を始めているのは存じ上げてなくて、大学生がそういうことを実現すれば、よりレベルの質の高いものが実現できるのではないかなどわくわくしています。私も高校生時代は部活の部長もやりましたし、生徒会側としてもやっていたので、予算の会議に部活側としても生徒会側としても出ていたのですが、そういうところで実感したのは、もっとレベルの高いことを大人の方たちはやっていて、僕たちはその第一歩を先取りできているという認識で、すごく新鮮な気持ちでやっていました。お金のやり取りを学生の間でするところにすごく価値を感じて、そういうところ学生時代から携われることができたので、いろんな視野を持って全国から集まった学生同士の声が集まる場所を実現できたらいいと思いました。

○中原さん 私は学園祭の実行委員会に入っていますが、新しいことをしたいとか、もっとこうしたいと言っても、なかなか予算が融通きかない難しさがあり、新しいことをしたいとなったときにそこに予算をしっかりと出せるような仕組みができると、もっと変革するきっかけになるのではないかと感じました。

◎駒井千代委員 先日、中学3年生と大人のトークに参加したのですが、中3の学生でも進路選択でいろいろ悩む時期ではあるんですが、親でも地域の人でも、大人とどこまで接したことがあるのか。社会問題のきっかけはいろんなところにあり、生活の中で何かしら課題はあって、無関心であっても無関係ではいられないから何か思うところがあると思いますが、大人とのつながりってこれまでどれぐらいあるのかということに、何か意見ある人がいたらお願いします。

○飯田さん 私自身は、地域での活動などで大人の方と関わるのが今までもあったのですが、学生にインターンシップを紹介するときの説明会で、最近、大学の先生とか親以外で大人の人と関わることはありませんか、という質問をしたら、90%以上、ほとんどの人が、親とかしか喋らないです、とか、バイト先の社員さんしか喋らないです、とおっしゃる方が多くて、ただその人たちも就職とかして社会に出たら、大人の方と関わる機会がぐんと増えると思うので、それってやばいんじゃないですか、とお伝えはしていますが、活動していてそういうことはとても感じます。

◎本田秀樹委員 ちょっとお聞きしたいんですけど、皆さんの周り、身内に政治家の方が誰かおられますか。

誰もおられない。政治家というのが何か悪いイメージがあるという話があったと思います。いろんな報道の中で政治と金ということがいろいろ報道されていると思いますが、その辺りについてどのように考えているのかお聞きしたいです。

○鶴田さん 税金が何に使われているか、あまり知らないのですが、政治に関してお金の話を聞くと、一番思いつくのが賄賂みたいなイメージになっていて、もちろん悪いニュースばかり気になったり目につきやすいということはあると思います。

◎本田秀樹委員 選挙にはお金がかかるイメージがあると思いますが、その辺りはどう思いますか。

また、議員の年齢が高くなってきて皆さんの世代の声がなかなか聞こえないという部分で、議員の年齢が高いことについて、例えば議員の定年制が必要かどうかという御意見があれば、お聞きしたいのですが、どうでしょうか。

○飯田さん お金に関してはいくらかかりますかと私達が聞かれたとしても、誰1人幾らかかりますと分からないと思います。

政治とお金の問題がこうやってかなり世間で言われているのであれば、私達が分かる形で示していただくことが第一歩だと思います。言ってもらえたら、必要なお金なんだなと分かって、良いイメージにも変わっていくと思います。

定年制に関しては、他の方をお願いします。

◎加藤誠一委員長 政治家になりたいと思っているかどうかということも含めてありますか。

◎本田秀樹委員 衆議院が25歳、参議院が30歳からということもあると思いますが、若い時に出ようと思うと、ある程度お金がないと選挙に出られないということもあるのかなと思いました。

○田中さん 今ありました、選挙に出られるのが25歳以上、30歳以上というところですが、成人したら出られる方がいいのではないかと思います。社会経験を積んでからの方がいいという話もあると思いますが、社会経験を積む必要があるのか、もっと早く挑戦した方がいいのではないかと思います。また、社会人になったら自分の仕事が忙しすぎて、政治に関心を向けにくくなることであったり、出たからのことがイメージしにくく、働き続けた方が多分、安定するというところもあると思います。

今の日本社会はメンバーシップ型雇用で、年功序列で仕上がっていく形があると思うので、18歳から出るというのでもいいのではないかと考えています。自分自身が選

挙に出るということは、まだ考えてはいたしません。

◎野田武宏委員 ドットジェイピーのSNSのアカウント自体は政治の発信だと思えますが、盛り上がっているのかどうかということと、政治家や政治に対して直してほしいこと、面白くないと思うところがあれば、教えていただきたいです。

よくその政治の話をするのがよくないと言われてたりしますが、そうした風潮が未だに大学でもあるのかということと、ドットジェイピー以外のメンバーで、例えば今日のここに誰かを呼ぼうと思ったときに、何人ぐらい呼べそうかなということ、最後に政治的なことを基本的に、自分でどうにもできないことで困ったことがあれば、具体的な話を含めて教えていただきたいです。

○田中さん まず、SNSについては、関西エリアの議員支部で運営してるSNSでしたら、大体フォロワー数が600から700人ほどになっております。投稿に関しては、議員や今回の衆議院選挙、前回の東京都知事選に関して投稿したり、就活塾の投稿やインターンシップの活動内容の投稿もしています。また、スタッフの活動内容をインスタグラムのリールで投稿しています。

ドットジェイピー以外で何人呼べるかということについては、どれくらいの期間があるかにもよりますが、2週間あったら5名は呼べるかと思えます。ただし、認知度や何をするのか、県議会が何をされているのかということと理解できていないところがあるので、そこからしっかり説明会などで紹介させていただければ、それくらい呼べるかなと思えます。今後は、今回はスタッフですが、議員対インターン生という感じで、学生とお話させていただく機会も作れたらと考えているので、近いうちに開催できればと考えております。

○藤本さん 私自身が普段、街中を歩いていて思うことが、政治家の皆さんのポスターが見てもよく分からないところがあり、見え方や見やすさなど考えてらっしゃるかと思えますが、素通りやいろんな人がいるというだけで終わってしまいます。それをより活用できないかなと思っていました。QRコードをポスターに貼られている方もいらっしゃるかと思えますが、そういうことをしてもいいのではないかなと思えます。そうした普段目に入るようなものを活かしていくのはいいのではないかなと思えました。

大学内での政治の話に関しては、別にそういうことはないと思えますが、潜在的なものとしてはあるのかなというふうには思えます。そういったところでトラブルなどがあつたら大学としてもあまり良くないと思うので、そういった意識は個人的にあるかなと思えます。

◎野田武宏委員 最後の政治的なことで悩んだことがあるかどうかということについて、私自身は、未だに奨学金を返済しています。奨学金という選択をして大学に入ってから、自分で返していくことがいかに大変かということとをどんどん知って、そういうところが政治に繋がっていくんですが、皆さんの中で何かすごい悩んだり困ったことがもしあればそういう具体的な話を聞きたいです。

○田中さん 京都市の市営バスについて、観光客が増えて市バスに乗れない、渋滞が多くて目的地になかなかたどり着けなくて、友達と遊ぶ時間も減ってしまうということも、市民がしっかり乗れる仕組みってというのはしっかり作ってもらいたいことと、交通整理は政治の範囲内だと思うので取り組んでいただきたいです。

◎中山和行委員 ほとんどの方が新聞を読んでおられないという話で、SNSが一番の情報源かと思いますが、SNSに出ている情報が真実なのかの見極めは、何を基準にしておられますか。

今の学生たちが政治に無関心であるというのは、今の日本の社会に対してこれで満足しておられるのか、やっぱりこれではあかんなというふうに思っておられるのか、あるいは自分たちで変えていこうとできると思っているのかどうか、お聞きします。

○中村さん 何を基準にしているかということはまだ難しいなと思っていて、実際に私が政治の情報を得る場所は、アルバイトの店長がすごく政治に詳しくったり、YouTubeで討論会を見て政治と金のことについても意識し始めたり、TikTokやSNSでよく言われているが正しいと思ってしまう部分があります。TikTokよりはYouTubeなどで議員同士が話している内容に信憑性があるのかなと思っていますが、確実な基準はまだ見えてないと思います。

日本に対しては、今の日本は怖いなと思っていて、お金の問題だと、海外にお金が出ていっているということをお聞きしますし、賄賂といった形で日本のお金がなくなっているのではないかという不安があります。税金もどうなるんだろうというところがあるので、日本の社会に希望を持っているかと言われると、正直、そうでもないと思ってしまうです。

私達、若者が、そういう社会について知っていくことで、少しずつでも変えるチャンスがあるのではないかと思うので、議員のお話だったりインターンシップを通じて若者に現在の日本を知ってもらいたと思っています。

◎河村浩史委員 今回は若者の議会への興味と関心を高めるための取組というテーマになっていますが、行政のやることは全般的に興味・関心を持ってもらうことが苦手な部分があります。その中で、今回、国の事業でもある大阪関西万博が来年開催されますが、今、この大学生の中で、この万博に対する盛り上がりや期待、あるいは何も関心がないのか、お聞きしたいと思います。

○中村さん 万博に関して、私の周りでは、あまり話はしていない印象はあります。私自身は万博に興味を持っており、今年の夏も万博関連のイベントをATCでやっているのですが、興味を持っている子はいるけど、大学ではあまり見かけないです。

インターン生の中で、万博について興味がある人は、60人中10人ほどでした。

万博のイベントに参加してくれた学生さんに万博の会場を見ていただくとすごく万博に興味を持ったという学生もいたので、そうしたイベントなどに参加してもら

と興味を持っていただけると思います。

○田中さん 今年の夏に大阪でエシカルE X P Oが開かれ、そこでドットジェイピーとして出展しましたが、他の出展しているところにも、大学生が多くいたので、興味ある方が一定数はいらっしゃる印象です。ドットジェイピーとしても裾野に広がっているところなので、一緒に協力しながら広めていければと考えています。

◎河井昭成副委員長 私はドットジェイピーのインターンシップを割と多く受け入れているので、大学生とコミュニケーションをとる機会を皆さんからいただいておりますが、議会として難しいこととして、どうやってそこにアクセスしたらいいのかが分からないということがあります。

学校に行くと、受け入れてくれることもあります。断られることがあります。どうやってアクセスするのか悩んでいるところなので、せっかくドットジェイピーがそういう機能を持っているので、そこに自信を持って活動を広げてほしいと思います。

また、先ほどの授業で取り上げるというのは、皆さんが仲間を5人でも6人でも集めてくれたらそこに幾らでも行くので、呼んでください。

今、103万の壁が話題になっていますが、これが皆さんにどう影響するのかを皆さんに分かるように説明できたらいいわけです。それを元に、皆さんに何が問題なのか議論してもらおうということをやると面白いのではないかと考えています。

○田中さん 議会への関心を上げるところで議会を知ろうというところは結構あると思うのですが、首長インターンシップというのをやっておき、滋賀県知事のインターンシップであれば滋賀県庁での受入れという形になり、その活動の中で議会を傍聴する機会を作っていただけたらいいので、そこから機会を提供できると思っています。

○飯田さん 今日、話させていただいた高校での出前授業は、私達ドットジェイピーは、教育委員会に行って後援いただいたので、そういうルートでやれば可能なこともあるのではないかと思います。

◎河井昭成副委員長 ワンステップ、ツーステップ必要になります。議会でメンバーを揃えて行きますとすると行けるけれど、1人で行こうとすると断られるということもあります。

○中村さん 私、京都の大学ですが、そこで仮にやろうとしたら、京都までお越しいただけますか。

◎河井昭成委員 行きます。

○中村さん 分かりました。ありがとうございます。

先ほど、103万の壁とありましたが、私も、給料は高くなってもそこがあるのでいけないじゃないかという悩みがあり、アルバイトの店長も、それがあからアルバイトの人数を削って、結局はアルバイトに負担がかかっているの、それがどういう仕組みになっているのかということを知りたいと、私も思っていますし、思っている人は結構います。

◎加藤誠一委員長 ありがとうございます。

今日は、若者が議会に興味を持つために、ということで、ドットジェイピーの皆様にお忙しい中お越しいただき、いろいろなお話をいただきました。委員からも、いろんなお話があり、お互いに勉強になったかなという思いです。

どうしたら若者に興味を持ってもらえるかということで、議員がしなければならないこともありますし、社会全体で取り組まなければならないことなど、いろんな切り口でやらないと特効薬はないという思いで聞いておりました。

これから委員会の中でも議論してまとめていきたいと思えます。本日は本当にありがとうございます。

以上を持ちまして意見交換会を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

閉会宣告 12時06分

県政記者傍聴：5社

一般傍聴 ：0人